

病院理念

私たちは、優しい心、深い知識、
高い技術をもって安全に配慮した、
良質な医療を提供し、地域社会に貢献します。

基本方針

- 私たちは説明責任を果たし、医療の透明性を保つことで、安全な医療を受診者とともに築きます。
- 私たちは、救急・災害医療の充実につとめます。
- 私たちは診療連携に力を入れ、市民とともに地域医療を守ります。
- 私たちは、医療に従事する誇りとよろこびを持ち、勤勉であり、強い意志を持ち、進歩的で合理的な考え方に基づいた医療を提供します。
- 私たちは、自己の教育能力を高め、教育研修病院として将来の地域医療を担う人材の育成につとめます。

うわまち病院5つのコンセプト

OCEAN

- Opportunity 恵まれた機会
- Cure&Care 質の高い医療と看護
- Education 確かな教育
- Arts 高い技術
- No Border 垣根のない人間関係



優しい心、深い知識、高い技術



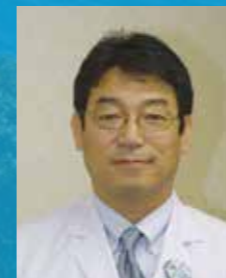
横須賀市長 吉田雄人
Yuto Yoshida

うわまち病院は、平成14年7月に国立横須賀病院の移譲を受け、開設以来、公益社団法人地域医療振興協会が管理運営を担っております。この間、救命救急センター、地域周産期母子医療センター指定を受けるなど、地域医療の中核を担う医療機関として機能の充実を進めてきました。今後も「いのちを大切にす横須賀」を目指し、信頼される病院づくりを進めてまいりますので、皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。



公益社団法人 地域医療振興協会 理事長 吉新通康
Michiyasu Yoshiara

平成14年7月、国立横須賀病院が横須賀市立うわまち病院となり、公益社団法人地域医療振興協会が指定管理者を引き受けて12年が経ちました。この間、沼田管理者以下職員一丸となつての運営、さらに開設者の横須賀市、横須賀医師会、横浜市立大学はじめ多くの関係の方々から温かいご指導、ご支援を賜ることができ、今日を迎えることができました。今後とも、良質な医療を提供し、地域社会に貢献する所存であります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



公益社団法人 地域医療振興協会 副理事長
横須賀市立うわまち病院 管理者 沼田裕一 Yuichi Numata

横須賀市立うわまち病院は先進的なシミュレーションセンターを備える臨床研修指定病院であり、総合医や専門医教育に力を入れています。診療連携に力を入れ、紹介率70%、逆紹介率80%の地域医療支援病院であり、年間救急車7,000台の救命救急センターを有しています。各部門はセンター化され、2005年日経「心臓病治療の実力病院」では循環器内科がAAAにランクされました。2014年にはダ・ヴィンチ、2015年には高精度放射線治療が開始され、洗練された臨床・研究・教育に力を入れていきます。私の自慢は「職員がとても優しい」と評判が高いことです。

全国自治体立優良病院表彰実績

病院経営について顕著な実績のあった病院として平成26年6月に表彰を受けました

救命救急センター



三次救急医療機関の使命を果たす

当院の救命救急センター(20床)は、三浦半島地区の三次救急医療機関としての使命を果たします。救急科専門医が初期治療を担い、各専門診療科の支援のもと高度な専門治療を提供しています。プレホスピタルケアにはドクターカー(2台体制)で貢献し、特殊治療(高気圧酸素治療等)も受け入れます。

神奈川県救急医療功労賞受賞

救急医療への貢献を評価され、神奈川県知事より平成25年度神奈川県救急医療功労者表彰を受賞しました。横浜買市及び三浦半島地域における救急医療への貢献が受賞理由となりました。

ICU・HCU

集中治療の必要な患者さんや周術期の厳重な管理が必要な患者さんなどは、ICU・HCUでモニターを備えたベッドを用意し、専門的に治療します。重症患者の管理が可能な病床を確保し、病状に変化がある場合には迅速に対応しています。



医師

平成15年10月に救急外来(ER)を開設。それから10年が経過し、各専門診療科の協力を得て、平成25年に救命救急センターを開設しました。これからも病院全体で三浦半島の救急医療に貢献します。(救急総合診療部部長/本多英喜)



看護部

看護部は8病棟、救命救急センター、ICU、NICU、GCU、外来、手術室の14看護単位からなり、病棟は固定チームナースング・継続受け持ち制です。看護の質向上のため、研修・教育を推進し、協会の系列病院の研修生も受け入れています。



MEセンター(医療機器中央管理室)

ME(Medical Engineer)センターでは臨床工学技士が、心臓カテーテル検査・人工心肺装置等の各種医療機器を必要ときに十分活用するために、点検・管理しています。また、機器を安全に正しく使用できるよう、職員に周知しています。



地域周産期母子医療センター



小児・周産期にかかわる高水準な医療を実践

平成26年8月、当院は神奈川県周産期救急医療システムにおける中核病院の指定および地域周産期母子医療センターの認定を受けました。地域周産期母子医療センターとは、産科および小児科等を備えた、周産期にかかわる高度な医療を行う医療施設です。24時間体制で一貫した対応を確保しています。

小児医療センター

子どもたちの生命および心と身体の健康を守るためには、小児科のさまざまな専門科を統合し総合的に診療を行うことが必要と考え、統括部門として当センターを設置しました。日本小児科学会が提唱する「地域小児科センター」構想に沿った小児医療を実践しています。年間1,300人以上の子どもたちが入院し、「横浜買市の小児医療の中心」として機能しています。



産科・婦人科

産婦人科は平成14年7月1日、うまち病院が始まると同時に診療を開始し、現在に至っています。分娩方法の悩みや母乳のあげ方、妊娠中のちょっとしたトラブルを、医学的根拠に基づいて自律的に解決する支援をしています。



NICU・GCU

小児医療センターにNICU(Neonatal Intensive Care Unit)と、GCU(Growing Care Unit)を設置しています。院内出生の新生児はもちろん、神奈川県全域からの依頼に迅速に対応し、幅広い疾患の治療を行っています。



センター機能



診療科の枠を超え、より専門的かつ高度な医療を提供

センター機能とは、内科や外科の患者さんを診療科の縦割りで診療するのではなく、診療科の枠を超えて医師が顔をつき合わせ、意思疎通を図り、より合理的に診療できるようにすることを意味しています。センター機能は、必要に応じてより専門的かつ高度な医療を提供することに適しています。

心臓脳血管センター

急性心筋梗塞や心不全、脳卒中などに迅速に対応するため、平成18年4月に心臓脳血管センターを設置。救急ホットライン、循環器ホットラインで医師会員や救急隊と連絡がとれる体制となっています。ドクターカーで24時間、急性期疾患を受け入れています。



消化器病センター

内視鏡的処置の進歩や腹腔鏡下手術の進歩により、消化器には内科・外科の境界がなくなりつつあります。こうした背景から消化器病センターを開設し、1人の患者さんを内科・外科双方の視点から検討することで、ベストな治療方針を決定しています。



成人先天性心疾患センター

近年、先天性心疾患治療の進歩により、複雑な疾患でも成人年齢に達する方が増えております。このように成人に達した先天性心疾患の方たちの診療には、小児循環器領域の専門知識と技術、成人領域の様々な知識と技術が必要です。当センターには、小児循環器医・成人循環器医・心臓血管外科医・総合内科医・救急総合診療医が所属しており、各専門家が連携して、さまざまな症状や状態に対応いたします。日本における成人先天性心疾患診療において、このように多科連携がしっかりと確立できている施設は少なく、画期的なことでもあります。

心不全センター

心不全患者に対する治療の質の向上と、多職種による包括的アプローチを行うための専門外来です。循環器科医師・循環器外来看護師・循環器外来事務・薬剤部・栄養科・リハビリ科等が連携を図り、心不全悪化の原因発見、長期予後の改善を目指しています。



da Vinci (ダ・ヴィンチ)

平成26年6月、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、前立腺がん手術への運用を開始しました。ダ・ヴィンチは1~2cmの小さな創から内視鏡カメラとロボットアームを挿入し、高度な内視鏡手術を可能にします。術者は肉眼の10倍の視野で3Dモニター画面を見ながら、

あたかも術野に手を入れているかのように手術を行い、従来の開腹手術や腹腔鏡手術の技術を生かしながら複雑な手術操作をします。そのため、術後の早期回復、機能温存に優れています。執刀医・麻酔科医・看護師・臨床工学技士が1つのチームとなり、手術にあたっています。



高精度放射線治療

平成27年2月に開設された高精度放射線治療センターは、三浦半島で初めて高精度放射線治療を行う病院として地域のがん治療に貢献する役割を担っています。最新鋭の高精度放射線治療装置「エレクタ社のAxes se」は、定位照射用のリニアックとして照射野4mm大の定位照

射から40cmまでの通常照射が可能です。また、平成28年度からはIMRT(強度変調放射線治療)を開始予定です。今まで難しかった正常組織の回避も行え、照射量も調整できるので副作用も少なくなります。今後も安全で高精度な放射線治療を提供していきます。

高精度放射線治療センター長 大泉幸雄
高精度放射線治療は、時には強く時にはやさしく、患者さんに合わせた個別化治療が可能です。温かい心で患者さんに接し、常に安全で丁寧な放射線治療を目指しています。



地域医療支援・診療連携

地域医療支援病院とは

当院は平成21年に「地域医療支援病院」の承認を受けました。地域医療支援病院とは、紹介患者さんに対し、高度な医療、救急医療、地域での医療機器の共同利用機会などを提供することにより、地域のかかりつけ医を支援するものです。

ドクターカー

平成16年5月、横須賀市で初めてドクターカーを導入。重篤な疾患や重症外傷にも対応できる機器、薬剤を搭載し、動く集中治療室として三浦半島地区の高い医療レベルを維持すべく活動しています。



うわまちホットライン

三浦半島地区の救急医療の充実を図る一環として設置。救急隊からの連絡を直接、担当医師が受けるシステムです。発症から病院到着までの時間を減らし、救急車のスムーズな受け入れを心がけています。



地域医療連携室

常時専任スタッフを配置し、高度医療機器利用システムや患者紹介システムを運用。当院と地域の医療機関との連携が円滑に切れ目なく行えるよう努力しています。また、窓

口で直接、患者さんと向き合い、セカンドオピニオンの受付や当院での治療を終了された患者さんに地域の医療機関情報を提供し、逆紹介を積極的に推進することで、地域の医療機関との連携をより深めています。



へき地医療支援

当院で研修を受けた職員が日本各地に派遣され、へき地医療支援を行っています。また、へき地の医療機関から職員の研修を受け入れ、へき地医療を支えています。

チーム医療

専門性の高いスタッフが連携して高度な医療を提供

医師・看護師・薬剤師・栄養士など、さまざまなメディカルスタッフが連携して専門性を発揮することで、患者さんの満足度をより高めることを目指したチーム医療を実践しています。入院中や外来通院中の患者さんの生活の質(QOL)の維持・向上、患者さんの人生観を尊重した療養をサポートしています。

心臓リハビリテーション

身体機能の低下を防ぎ、生活の質を改善するのが心臓リハビリテーションです。専門スタッフが協力してハイキングや講習会を開催しています。

NST(栄養サポートチーム)

NSTは、最適な栄養療法の提供を目的としています。医師・看護師・薬剤師・栄養士がミーティング・回診・勉強会を行っています。



褥瘡対策チーム

褥瘡の発生リスクが高い患者さんに対し、早期から予防、あるいは軽症のうちに発見して治療することが、褥瘡対策チームの役割です。

ICT(感染制御チーム)

さまざまな職種によって組織されるICTは、院内で起こる感染症から患者さん、ご家族、職員の安全を守る活動を行っています。

RST(呼吸サポートチーム)

人工呼吸器装着患者を対象に、医師、認定看護師(集中ケア・感染管理)、ME、PTと多職種で患者さん、ご家族をサポートしています。

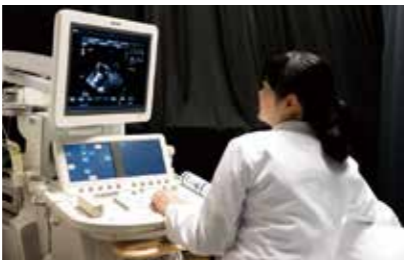
薬剤部

薬剤部では安全を第一に考え、患者さんへ分かりやすく説明し薬歴を確認することによって、治療が円滑に事故なく進むよう努めています。



臨床検査部

精度の高い検査データを迅速に医師へ提供することで、患者さんに質の高い医療を提供するチーム医療の一助となるよう、努めています。



リハビリテーション科

PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)が専門性を活かし、他職種と協働して質の高いリハビリテーションを提供しています。



診療放射線科

医師会および地域の他病院にも高度医療機器を広く利用していただくため、検査結果をCD-Rで提供。院内勉強会で技師の専門性向上に努めています。



栄養科

入院患者の栄養管理と入院・外来患者の栄養指導を担当しています。NSTや嚥下困難対策チームにも参加し、栄養面のサポートを行います。



患者支援室

平成16年3月に患者支援室を開設。患者さんの立場に立ち、患者さんの代弁者として、医療現場で起こるさまざまな問題の解決を支援しています。

医療安全管理室

医療安全管理委員会を中心に、インシデントには「ブレイムフリー＝責めない」を合言葉に、アクシデントには透明性を重視して対処します。

医療者の育成



地域医療に貢献できる医療者の教育・育成を推進

当院では地域医療に貢献できる医師、看護師、メディカルスタッフの人材育成に力を入れております。医師後期研修や研修医の受け入れのほか、専門・認定看護師の資格取得支援制度も設けています。全職員を対象にした幅広い研修講座も実施し、高い技術と見識を備えた医療者の教育・育成を推進しています。

研修制度

公立病院の中でも独自の特徴を持っている当院は、教育研修病院として医師の研修に力を入れております。医師ひとりの裁量が大きく、幅広い領域を学び、成長することができる環境です。また、地域医療振興協会の診療施設は日本全国に広がっているため、北海道から沖縄までさまざまな施設へ研修に行くことも可能です。



シミュレーションセンター

シミュレーションセンターとは、シミュレータ・モデルなどを用いてケースシミュレーションや手技などの実習訓練を行う教育機関であり、一般病院での導入は全国でも珍しい例です。最新機器を用いて各科のベテラン指導医が研修医に指導し、併せて指導医教育も行っています。



医師後期研修

各科後期専門研修プログラムが多数あり、初期臨床研修修了後に後期専門研修に進むこともできます。もちろん後期専門研修修了後に、スタッフドクターとして勤務することも可能です。総合医や洗練されたサブスペシャリティを持つ専門医の教育に、力を入れていきます。

初期臨床研修医

数多くの専門科が救急医療を支えているため、プライマリーケアから専門医療まで幅広く学ぶことができます。また、地域医療を展開するにあたって必要不可欠な地域連携も確実に形成されており、地域とともに医療をつくることを学べます。off the jobトレーニングもしっかりサポートします。

職員研修講座

月に一度、全職員を対象に開催。各領域の職員が専門的な話をわかりやすく講義し研修を行うなど内容は多岐に渡ります。

米海軍病院との合同CPC

毎月、横須賀米海軍病院の医師にレクチャーをいただいている他、年2回合同カンファレンス(CPC)を開催しています。

病理解剖

当院は神奈川県内で常にトップクラスの、年間約30例の病理解剖実績があります。また、月1回のCPCも開催しています。

各部門の特色

総合内科

発熱や疼痛、呼吸困難など、ほとんど全ての症状に対して臓器の枠にとらわれずに診療を行います。また病態や重症度に応じて、各専門科と連携を取りながら診療を進めていきます。

精神科

精神科では珍しく予約なしに初診を診ています。物忘れ外来もあり、介護認定から生活環境まで、きめの細かい相談を受けていて、こちらも予約なしです。病棟はありませんが、幅広い精神科診療をしています。

神経内科

脳血管障害、脳炎やADEM、神経免疫疾患、認知症、パーキンソン病、ALSなどの変性疾患など幅広く診察しています。横浜市大病院神経内科から1週間に2回の応援体制です。

循環器内科

急性期から心臓リハビリテーションまで多職種による効率的かつ包括的な診療を実施。心不全から虚血性心疾患、不整脈、末梢血管疾患、デバイス治療まで幅広く対応。ドクターカーや医療連携で三浦半島の循環器診療に貢献します。

腎臓内科

血液透析、腹膜透析、吸着療法などの血液浄化療法を必要とする症例を中心に、診療を行っています。

心臓血管外科

平成21年に開設し、心臓血管外科専門医認定基幹施設になっています。生命に直結する緊急手術を含め、成人心臓血管外科疾患の診療にあたります。下肢静脈瘤の治療やフットケアを含む足のトラブルのご相談もお受けしております。

呼吸器内科

肺癌、間質性肺炎、肺線維症、気管支喘息、呼吸器感染症、COPD、慢性呼吸不全等の多様な呼吸器疾患全般をカバーしています。また、多数のアスベスト関連疾患の患者さんが受診されています。

消化器内科

食道から直腸までの全消化管および肝臓・胆道・膵臓に至る実質臓器まで、幅広い範囲の領域を担当しています。吐血・腸閉塞・胆管炎等の救急疾患に対しても24時間365日救急に対応できる体制を整えています。

小児科

24時間365日体制で小児の入院医療を提供しております。小児科専門医が多数在籍しています。小児科の各専門領域の外来も有し、救命救急から慢性疾患まで様々な疾患に対応可能です。

小児外科

小児科専門医が診療を行っています。手術数は年間90～100件程度です。処置や手術に際し、看護師・チャイルドライフスペシャリスト・子ども療養支援士と協同して、患児さんの不安や苦痛が軽減するように配慮しています。

外科

消化器肛門領域疾患を中心に、乳腺疾患やヘルニアなどを含めて、手術を核とした「外科専門総合診療」を実施しています。また地域基幹病院、地域医療支援病院として、緊急・救急手術にもさらに重点をおいて診療を行っています。

整形外科

変形性関節症に対する人工膝関節置換術、高位脛骨骨切り術、人工股関節置換術、頸椎性脊髄症に対する椎弓形成術、腰部脊柱管狭窄症に対する後方固定術など、外傷、関節疾患、脊椎疾患を幅広く治療しています。

脳神経外科

脳卒中、頭部外傷など救急疾患に対しては、開頭手術・血管内治療・ステレオ手術など症例毎に最適な治療を行います。脳腫瘍手術ではナビゲーションシステムや神経内視鏡、超音波装置を駆使して安全性・正確性を高めています。

呼吸器外科

肺、縦隔、胸膜、胸壁、横隔膜などの胸腔内臓器に発生する良性、悪性の疾患に対して外科的切除を行います。また胸腔鏡下手術を積極的に取り入れ、低侵襲の手術を目指しています。

皮膚科

皮膚科全般の疾患を広く診療し、アレルギー性皮膚疾患の原因精査として皮膚テスト（パッチテスト・ブリックテスト）に力を入れています。また、皮膚腫瘍小手術、尋常性乾癬の光線治療、生物学的製剤治療も積極的に行っています。

形成外科

主に体表の外科的治療を行っています。皮膚・皮下腫瘍の切除摘出および形態と機能の再建、顔面・手指外傷、先天異常などのほか、傷跡のつれ、腋臭症、陥入爪、難治性潰瘍などの外科的治療も対象です。

泌尿器科

尿路悪性腫瘍、前立腺肥大症および尿路結石の治療に重点をおいています。尿路内視鏡手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術などの低侵襲治療法を積極的に取り入れ、最小限の負担で最大の効果が得られる治療を目指しています。

産科

地域周産期母子医療センターとして、妊娠29週以降の母体搬送を受けており、切迫早産、妊娠高血圧症候群、胎児発育不全などの管理を行っている一方、ローリスク群の分娩は、畳上でのフリースタイルが主体です。

婦人科

婦人科腫瘍の開腹下、腹腔鏡下手術をはじめ、小さな症状でも心おきなく受診していただける、地域に根ざした総合病院でありながら、かかりつけ医という存在でありたいと願ってチームで診療を行っています。

眼科

診療の6本柱として①白内障手術：日帰り手術&入院手術、②眼形成手術：眼瞼下垂、眼瞼内反症（逆さ睫毛）など、③レーザー外来、④緑内障検診、⑤こども専門外来、⑥ボトックス治療、を行っています。

耳鼻いんこう科

急性炎症疾患、突発性難聴などの急性期に入院加療を行っています。手術は耳疾患、鼻疾患、口腔・咽頭疾患、喉頭疾患、頸部疾患に対応可能です。補聴器外来では補聴器導入、調整、適合検査まで行っております。

放射線科

各種画像検査とその診断報告書作成を担当しています。また医療連携を介して、CTやMRIなどの外来検査を充実させ、地域の医療機関との連携を深めています。この画像所見から入院治療や緊急手術に結びつくこともあります。

高精度放射線治療センター

高精度リニアック治療装置Axesseによる画像誘導定位治療システムを用いた脳定位照射、肺・肝定位照射、IMRTの他、通常照射も可能です。丁寧な診察・治療を提供します。

麻酔科

主に手術室での麻酔管理、すなわち、あらゆる年代、様々な合併症を有する患者さんたちに、安全かつ必要な手術を受けていただくため、各科と連携して、手術前から術後にかけてのマネージメントを行っています。

救急科（救急総合診療部）

プライマリケアから救命医療まで幅広い守備範囲をもつ救急総合診療部です。我々スタッフは、年齢や性別、診療科を問わず、「緊急度」と「重症度」に応じて適切に対応できる救急医として地域医療に貢献します。

病理検査科

手術材料や内視鏡検査材料、尿・喀痰・乳腺等からの材料を、顕微鏡を用いて組織学的・細胞形態学的に疾病を診断しています。また病理解剖し、死因を探索して、治療効果を検討するなど、よりよい治療へ繋げています。

リハビリテーション科

当科はPT、OT、STの3職種よりなり、「臨床・教育・研究」を柱に日々励んでおります。各疾患の急性期リハビリを中心に、回復期病棟は365日の訓練体制を取り、本人・家族のご希望に沿えるよう支援させていただいております。

看護部

看護部の理念は、「医療機関としての役割と地域の人々の期待に応えられるよう、安全で信頼される看護を提供します」と掲げています。患者さんと家族に寄り添い共に歩む看護を目指し安全で質の高い看護に努めています。

薬剤部

薬剤部は、患者さんが安全かつ適切な医療を受けられるよう努めています。薬品管理、調剤、製剤、薬品情報の提供、注射薬の混合、がん化学療法の支援、服薬指導、副作用・薬歴の確認等を行っています。

臨床検査部

臨床検査部では、「迅速・正確・付加価値の高い検査結果を提供する」を目標とし、診断に必要な不可欠な臨床検査業務を行っています。また、日常業務の他にBSCやTQM活動に積極的に参加し業務改善に取り組んでいます。

MEセンター（医療機器中央管理室）

院内各所にて呼吸・循環・代謝に関する生命維持管理装置の操作および保守点検を主とし、院内で使用される各種ME機器の保守・管理業務や病院スタッフへのME機器に対する教育などを行います。

栄養科

入院・外来共に全疾患を対象として365日栄養指導を実施しています。指導件数は年間約6,000件以上の実績があり、その件数は近隣病院と比べて群を抜いています。また入院患者には各疾患に対応した食事提供をしています。

診療放射線科

320列CT、ガンマカメラ等の高度医療機器を広くご利用いただいております。そのため、科内および合同勉強会を開催し、技師各々のスキルアップに努めています。

医療安全管理室

職員教育研修を通じて安全意識の向上に努めています。些細な事でも職員が容易に報告できるような環境を調整し、インシデント・アクシデント報告をもとに職種横断的に再発防止策を検討して事故防止に取り組んでいます。

患者支援室

うわまち病院の患者支援室は「アドボカシー室」です。患者アドボカシーとは「患者の権利を守るために患者の意見や要望を病院側に伝え、解決を図る」ことです。医療従事者と患者さんとの良好な関係を築くことが重要です。

医療相談室

患者さんや家族のかかえる病気の不安や病気に伴う生活への不安に対して、退院支援調整看護師と医療ソーシャルワーカーが協力して支援を行い、院内スタッフや関係機関と連携を図っていきます。

保安全管理室

患者さんおよび職員の安全、安心を確保し、平穏な秩序を維持するため、院内において警戒活動、パトロール活動等を行っています。

診療情報管理センター

院内の診療記録（カルテなど）を集中して管理しています。また、診療記録に基づくデータベースを構築管理、活用し、院内における診療・研究・教育のサポートをしています。

感染制御室

感染制御室は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務員などの他職種で構成され、当院に来院される全ての方と全ての職員が安全に働ける環境づくりを行い、それぞれの専門性を活かしながら、院内感染防止に努めています。

事務部

事務部は、医師、看護師等様々な職種と共に患者さんに対して良質な医療を提供していく事と、他職種の方々と業務を通じて意見交換を行う中で、知識や見識が一層広がる機会に恵まれている魅力ある職場です。

院内風景



左上／プロの音楽家やボランティアによる院内コンサートを開催。右上／各種クラブ活動が盛んで、バレーボール部は病院協会主宰の県大会で優勝した実績もあります。中央／職員旅行は全10コース程度。国内・海外旅行を満喫しています。

施設概要

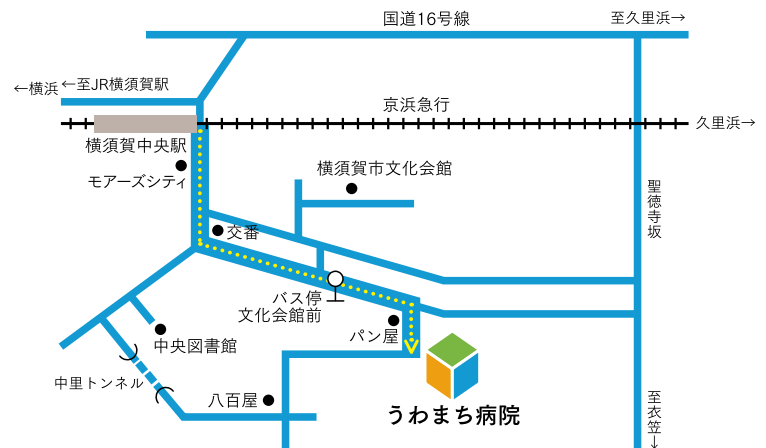
- 敷地 39,438㎡
- 延べ床面積 19,634㎡
- 病床数 417床
- 各種指定・認定
 - 地域医療支援病院 救命救急センター(三次救急)
 - 神奈川県周産期救急医療システム中核病院
 - 地域周産期母子医療センター 病院機能評価認定病院
 - 臨床研修指定病院 神奈川県災害協力病院
 - 救急指定病院 DPC対象病院
- 入院基本料の施設基準
 - 一般病棟入院基本料7:1 療養病棟入院基本料1
 - 総合入院体制加算 臨床研修病院入院診療加算1
 - 救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算
 - 妊産婦緊急搬送入院加算 診療録管理体制加算
 - 医師事務作業補助体制加算4 急性期看護補助体制加算1
 - 夜間50対1急性期看護補助体制加算
 - 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算1
 - 重症者等療養環境特別加算2 療養病棟療養環境加算1
 - 重症皮膚潰瘍管理加算 医療安全対策加算1・2
 - 感染防止対策加算1 患者サポート体制充実加算
 - ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算
 - 退院調整加算 新生児特定集中治療室退院調整加算
 - 救急搬送患者地域連携紹介加算
 - 後発医薬品使用体制加算2 データ提出加算
 - 地域医療支援病院入院診療加算 地域加算4級地
 - 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 乳幼児加算・幼児加算
 - 小児療養環境特別加算
- 特定入院料の施設基準
 - 救命救急入院料1
 - 新生児特定集中治療室管理料2
 - 小児入院医療管理料2
 - 回復期リハビリテーション病棟入院料2
 - 特定集中治療室管理料3
 - 新生児治療回復室入院医療管理料
- 指定医療
 - 母子保健法(養育医療) 身体障害者福祉法(更生医療)
 - 児童福祉法(育成医療) 労働者災害補償保険法
 - 生活保護法 戦傷者特別援護法 原子爆弾被爆者援護法
 - 母体保護法 結核予防法 難病法

診療科目

総合内科 精神科 神経内科 腎臓内科 呼吸器内科 消化器内科
消化器外科 循環器内科 小児科 外科 乳腺外科 整形外科 形成外科
脳神経外科 呼吸器外科 心臓血管外科 小児外科 皮膚科 泌尿器科
産科・婦人科 眼科 耳鼻いんこう科 放射線科 麻酔科 病理検査科
救急科(救急総合診療部) リハビリテーション科

沿革

- 明治24年3月 横須賀衛成病院として創設する
- 昭和11年11月 横須賀陸軍病院と名称を変更する
- 昭和20年12月 厚生省へ移管され、国立横須賀病院と名称を変更する
- 平成14年7月 国立横須賀病院が横須賀市へ移譲され、横須賀市立うわまち病院として開設する(14診療科、350床)
- 平成16年3月 電子カルテシステム導入
- 平成16年3月 患者支援室(アドボカシー)設置
- 平成16年5月 ドクターカー導入
- 平成18年7月 新病棟(南館)が完成し、新手術センター、新総合リハビリテーションセンター、療養病棟、回復期リハビリテーション病棟が稼働開始
- 平成18年10月 (財)日本医療病院機能評価機構の認定(ver.4)を受ける
- 平成20年4月 DPC対象病院となる
- 平成20年10月 7対1看護基準取得、ICU4床開設
- 平成21年10月 地域医療支援病院となる
- 平成22年7月 NICU3床開設、ICU8床へ増床(28診療科・417床)
- 平成23年10月 公益財団法人日本医療病院機能評価機構の認定(Ver.6)を受ける
- 平成24年6月 ICU12床へ増床
- 平成24年10月 NICU6床へ増床
- 平成25年4月 救命救急センター指定(ICU8床、HCU16床)
- 平成26年6月 全国自治体立優良病院として表彰を受ける
- 平成26年8月 地域周産期母子医療センターの認定を受ける
- 平成26年11月 院内ICU8床、HCU24床へ再編
GCU7床開設



アクセス

- JR横須賀線：
横須賀駅下車、衣笠行きまたは三崎長井行きバスにて文化会館前で下車、徒歩約5分
(バスは1番～8番、11番、18番)
- 京浜急行電鉄：
横須賀中央駅下車、徒歩約12分



公益財団法人 地域医療振興協会

横須賀市立うわまち病院

〒238-8567 神奈川県横須賀市上町2-36

TEL : 046-823-2630 FAX : 046-827-1305 <http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/uwamachi/html/>



2011年10月に
病院機能評価
(評価体系 Ver.6)の
認定を受けました。